

平成22年5月1日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520720

研究課題名（和文）九州とその周辺における島の芸能の研究：開放性・自律性・境界性の中の民俗文化の諸相

研究課題名（英文）The Folk Performing Arts of Islands around Kyushu

研究代表者

笹原 亮二（SASAHARA RYOJI）

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授

研究者番号：90290923

研究代表者の専門分野：民俗学・民俗芸能研究

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：(1)民俗学、(2)民俗芸能研究

1. 研究計画の概要

九州とその周辺に存在する奄美群島・薩南諸島・五島列島・壱岐・対馬等の多くの島嶼は、古来、国内外を巡る船の航路上に位置し、人や物や情報の頻繁な往来を通じて島外との密接な交流・交渉が見られたが、反面、外部との隔絶が生じ易い地形的制約から、一定の自律性が醸成されていった。

この地域の島嶼では、それぞれの地域毎に特徴的な民俗芸能が分布しているが、それらは、島外と共通しつつも、島毎に細かな差異も認められ、こうした共通性と独自性が複雑に入り組んだ民俗芸能のあり方は、開放性と自律性と地域性が交錯しつつ展開してきた、これらの当初の歴史的環境との関わりにおいて形成されたことを窺わせる。

本研究ではこうした問題意識に基づき、九州とその周辺地域における島嶼に伝わる民俗芸能について調査を行い、その実態を明らかにすると同時に、それぞれの島嶼の歴史的・文化的位相や地域のコミュニティの今日の変容との関連等の異同にも配慮しつつ多角的に検討を行い、島外と交渉・交流してきた開放性・島故の自律性・「異国」に接する境界性の交錯の中で、歴史的に形成され、伝承されてきた、それぞれの島の民俗文化としての、この地域の民俗芸能の様相を解明する。

2. 研究の進捗状況

長島の太鼓踊・笠踊などの風流踊、甕島列島の仮面芸能、天草諸島の祭の神幸行列・太鼓踊・綾踊などの風流踊・獅子舞・蛇踊などの長崎くんち系芸能・虫送り行事等の各種の芸能や儀礼、下五島の五島神楽・獅子コマ舞・チャンココ踊などの風流

踊・砂打ち・ヘトマト等の各種の芸能や儀礼、上五島の五島神楽・めーざいてん・みんかけ等の各種の芸能や儀礼、平戸諸島の祭の神幸行列・平戸神楽・ジャンガラ踊・須古踊などの風流踊等の各種の儀礼や芸能、壱岐の祭の神幸行列・舟競・壱岐神楽等の儀礼や競技や芸能、対馬の祭の神幸行列・巫女舞・盆踊等の儀礼や芸能、筑前諸島の祭の神幸行列や細男等の各種の芸能といった、九州周辺各地の島々において行われている民俗芸能や儀礼について、特に実際に上演されている状況を中心に現地調査を実施し、それぞれの上演の次第・芸態・現代の変容・伝承地の歴史的沿革等に関する関連資料や情報を収集した。

また、鹿児島県立図書館・薩摩川内市立図書館・熊本県立図書館・天草市立図書館・長崎県立図書館・長崎市立図書館・西海市立図書館・平戸市立図書館・佐世保市立図書館・五島市立図書館・新上五島町立図書館・壱岐市立石田図書館・対馬市立つしま図書館・福岡県立図書館・福岡市総合図書館等の各地の図書館、薩摩川内市川内歴史資料館・長島町立歴史民俗資料館・出水市歴史民俗資料館・天草市立本渡歴史民俗資料館・長崎歴史文化博物館・西海市立大瀬戸歴史民俗資料館・西海市立西海歴史民俗資料館・的山大島ふるさと資料館・平戸市生月町博物館・松浦市立福島歴史民俗資料館・松浦市立鷹島歴史民俗資料館・五島観光資料館等の各地の博物館や歴史民俗資料館において、論文や調査報告書や文献や映像記録その他の資料を調査・収集したほか、各地の芸能の上演の状況などに関する情報収集を行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初現地調査を予定していた、九州周辺の島々について、長島・甕島列島・天草諸島・下五島・上五島・平戸諸島・壱岐・対馬・筑前諸島について、九州東岸の大分・宮崎両地域の島々を除き、とりあえず、一通り実施することができた。また、関連資料の調査に関しても、九州東岸の大分・宮崎両地域の島々に関する資料も若干含むかたちで実施することができた。

4. 今後の研究の推進方策

昨年度までの調査成果を整理・検討し、甕島列島、平戸諸島、壱岐、対馬等、芸能の上演や祭の実施の期日が重複するなどして、これまで調査や資料の収集が十分に行うことができなかつた地域や、更に詳細な調査や資料の収集となる問題点が浮上してきた地域について、重点的に現地調査や資料収集を行う。そして、それらの成果もあわせて、改めて調査成果全体の整理・分析を行い、報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

①笹原亮二2010「映像取材や番組作りと地域の人々—国立民族学博物館製作長編映像番組「奄美大島の八月踊り」を巡って—」『人間文化研究における連携構築と社会発信に関する方法論の考究国際文化学研究』人間文化研究機構, 査読無, pp. 42-54。

②笹原亮二2010「新芸能論再論—地域の芸能を巡る内なる声と外からの眼差し—」『国際文化学研究』別冊 III, 査読無, pp. 4-20。

③笹原亮二 2009『「奄美大島の八月踊り」と喜界島の八月踊り』笹原亮二編『喜界島で「奄美大島の八月踊り」を見る』国立民族学博物館機関研究プロジェクト「伝統芸能の映像記録の可能性と課題」・同「ユーラシアと日本：交流とイメージ」, 査読無, pp. 4-20。

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 3 件)

①笹原亮二 2010『鹿児島と奄美で「奄美大島の八月踊り」を見る』国立民族学博物館機関研究プロジェクト「伝統芸能の映像記録の可能性と課題」・同「ユーラシアと日本：交流とイメージ」, 58 頁。

②笹原亮二 2009『喜界島で「奄美大島の八月踊り」を見る』国立民族学博物館機関研究プロジェクト「伝統芸能の映像記録の可能性と課題」・同「ユーラシアと日本：交流とイメージ」, 48 頁。

③笹原亮二 2008『映像で八月踊りを記録する』国立民族学博物館機関研究プロジェクト「伝統芸能の映像記録の可能性と課題」・同「ユーラシアと日本：交流とイメージ」, 50 頁。

[その他]

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/19520720.html>